

# ふるさと 通信員だより

vol.201

このコーナーでは、ふるさと通信員が取材した身近な地域的话题を紹介しします。なお、町では通信員を募集しています(活動はボランティアでお願いしています)。広報活動に興味のある人は、役場広報広聴課広報係(内線216)にご連絡ください。



マジックを楽しむ会(安田喜久男会長、会員6人)は、地域の活性化やコミュニケーションに役立てようと日頃から、マジックの練習に励んでいます。トランプやくす玉、赤、青、黄のシルク、傘やリングなどカラフルなマジックグッズを使い、巧妙な仕掛けとテクニックで次々と華麗なパフォーマンスをみせます。同会は、昭和63年故植田広志さんを講師に入門者20人で発足して今年で33年目です。「コロナが収束したら福祉施設や学校慰問でマジックの魅力を伝えたい」と安田会長は話していました。マジックに興味ある人や演じてみたい人は安田会長(☎43-2154)へお問い合わせください。



たかだ てつこ  
高田徹子 通信員

マジックの魅力を  
伝えたい



令和2年度から小学校で実施する外国語活動が3・4年生は必修化、5・6年生が教科化となりました。それ以前から、川端るみ子さん(むつみ)、五十嵐里菜さん(北蘭東)は町内の小学校の外国語活動のサポーターに入っています。なお、川端さん7年目、五十嵐さんは9年目の活動。令和3年度も担任の先生や専科の先生と一緒にボランティア人材として、子どもたちの学びをサポートします。2人は「現場は楽しい。長年この活動に携わり、外国語活動に子どもたちが慣れてきていると感じます。これからも楽しく学んで欲しい」と話してくれました。



いしだ ひさよ  
石田尚世 通信員

小学校外国語活動  
サポーター